

文学部 外国語学科 英語専攻

ディプロマ・ポリシー

1. 卒業要件

専攻科目から 70 単位以上、共通科目から 20 単位以上、専攻科目、関連科目及び共通科目から 38 単位以上、合計 128 単位以上を修得し、2 に挙げる能力を身に付け、本学学則に定める在学期間を満たす者へ学士（英語学）の学位を授与する。

2. 修得する能力

- (1) 英語の語学的知識を修得している。
- (2) 実践的な英語運用能力を身に付けている。
- (3) グローバルな視野に立ち、言語と文化に関する豊かな知識を修得している。
- (4) 豊かな人間関係を育むための知識、創造力、行動力を身に付けている。

3. 卒業後の進路

メーカー、商社、金融、小売、旅行・交通・観光関連、教育関連の各業界、並びに公務員及び公立、私立の中学校・高等学校教員への就職、更に大学院進学が期待される。

カリキュラム・ポリシー

1. 体系（構成）

- (1) 外国語学科英語専攻の授業科目は、専攻科目・関連科目・共通科目から構成されている。
 - ①専攻科目では、専門分野を深く学ぶ。
 - ②関連科目では、専門分野の視野を広げるために、専門分野に関連した科目を学ぶ。
 - ③共通科目では、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を育てるために、キリスト教学、人文科学、社会科学、自然科学、スポーツ科学及び外国語を学ぶ。
- (2) 1・2 年次では、英語の基礎学力を向上させるために、「英語総合演習」「英語演習」「スピーキングスキル」「英文法」等の英語スキル養成科目を中心に学ぶ。また、1 年次の必修科目である「ことば学入門」と「コミュニケーション学入門」は、英語専攻での学修の基礎となる科目である。
- (3) 2 年次には、「英語学概論」「コミュニケーション学基礎演習」「ビジネスコミュニケーション」等の入門科目を学ぶ。
- (4) 3 年次以降は、4 つの部門から専門科目を学ぶ。

- ①英語学部門では、英語を人間の思想を反映する言葉としてとらえ、英語の語彙・構造・歴史等を理論的に研究する。
- ②コミュニケーション学部門では、英語を異文化コミュニケーションの手段の1つとしてとらえ、スピーチやコミュニケーションの理論を学び、豊かな人間関係を築くための訓練を行う。
- ③ビジネス英語部門では、英語の実務的運用能力の向上に重点を置き、国際ビジネスの仕組み及びビジネスコミュニケーションの諸問題を研究する。
- ④言語文化部門では、文学作品等を通して英語という言語の背後にある文化的・社会的要素を深く分析しながら、英語を使った日本文化の世界への発信方法を研究する。

2. 特色

- (1) 少人数による英語スキルのクラスで、きめの細かい指導を行う。
- (2) 英語を読む、書く、聴く、話す力の指導を行う。
- (3) 個人の学力に合った指導を行う。
- (4) 想像力、創造力、好奇心、探究心を養う教育を行う。
- (5) 幅広い関連分野の学修機会を提供し、学生が自ら学修計画を立て、主体的な学びを
実践できる教育を行う。

3. 具体的な教育内容

〔英語スキル養成関連科目〕

「読む」「書く」「聴く」「話す」の4つのスキルを中心に学び、専門領域で英語を生かした学修活動ができる英語力を身に付けると同時に、英語の修得を通じて、豊かな教養、批判的思考力、及び国際的に通用するコミュニケーション力を獲得する。

〔英語学関連科目〕

グローバル社会における英語の広がり背景に、言語普遍性を念頭に置いた英語の理論的・認知科学的知見に目を開くと共に、歴史と社会の変容に伴う英語の多様性に目を向け、英語をより深く広い文化と社会の文脈の中で理解し、論理的思考力及び批判的思考力を備えた、教育研究分野をはじめとする社会で実践的に活躍できる力を身に付ける。

〔コミュニケーション学関連科目〕

英語の語学的知識を習得した上で、グローバル社会で実践的に有効なコミュニケーション能力を養成する。そのためにコミュニケーション学の基本的知識を習得し、それに基盤を置く能力を向上し、異文化はもちろん様々な対人関係を創造的に育む総合的コミュニケーション能力とともに、社会のあり方に関心を抱き、問題を発見、解決する能力を修得する。

〔ビジネス英語関連科目〕

国際ビジネスや貿易（輸出入取引）に関連する、メーカー、運輸・流通、金融、保険等多岐にわたる業界についての知識、また国際情勢や世界経済の情報を理解するデータや書類の読解やそれらを発信するための英語力を養う。更に、異文化経営や国際ビジネスにおける交渉力、意思決定能力、リーダーシップ等の英語によるビジネスコミュニケーションの知識

とスキルを学ぶ。

〔言語文化関連科目〕

西洋の文化や言語に影響を与えた神話や宗教的逸話、或は日本文化の主なスタイルとその歴史的背景について学び、異なる文化や社会のみならず、自国の文化や社会に対して知的な見方ができるような思考力を鍛える。アカデミックライティング、及び英語による議論とプレゼンテーションのスキルを磨く。

アドミッション・ポリシー

1. 求める学生像

外国語学科英語専攻は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を備えた者を求める。

- (1) 大学での学修に必要な基礎学力を有している者。
- (2) 英語の基礎力を修得し、英語学習に積極的に取り組める者。
- (3) 異文化の他者と積極的にコミュニケーションする意欲を持つ者。
- (4) 自らの人間関係に関する好奇心と向上心を持つ者。

2. 選抜方法

外国語学科英語専攻では、前項で述べた資質を有する者を、以下の方法によって選抜する。

- (1) 一般選抜（一般入試、英語 4 技能利用型一般入試、大学入試センター試験利用入試（前期・後期）、一般・センター併用型入試）

高等学校での学修の達成度をみるとともに、大学での学修に必要な基礎学力を有しているかを評価する。また、一般選抜のすべての入試において英語の配点比率を高くし、更に一般入試では英語に基準点を設けることにより、英語専攻において専門知識を修得するための英語力を有しているかどうかも含めて判定する。

- (2) 特別選抜（総合型選抜入試、指定校推薦入試、指定校選抜入試、併設高校からの推薦入試、国際バカロレア A0 入試）

総合型選抜入試では、高水準の英語能力を有することを出願条件とし、入学後にその能力を積極的に活用し、他の学生に刺激を与えることを期待している。受験者に小論文と面接を課し、出願時の学修計画書等を含めて、受験者の知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・協調性を総合的に判定する。

推薦入試では、高等学校において一定の基準の学力を修得したと認められる生徒の推薦を求めるが、英語専攻においては、更に英語の評定平均値や資格・検定試験のスコアなどを出願資格に加えることにより、英語に興味を持ち、その能力を維持発展させる意欲のある者を評価する。受験者には、小論文と面接を課しており、出願時の志望理由書を含めて、受験者の意欲・関心、理解力・思考力・表現力を総合的に評価して判定する。

国際バカロレア A0 入試では、受験者に面接を課し、出願時の志望理由書を含めて、受験者の意欲・関心、理解力・思考力・表現力を総合的に評価して判定する。

(3) その他の選抜（外国人入試）

多様な学びの背景を持つ学生を受け入れるために、外国人のための入試を実施する。一定の語学力を有することを出願要件としたうえで、日本語による作文と面接を課すことにより、受験者の意欲・関心、理解力・思考力・表現力を総合的に評価して判定する。